和 漢 診 療 学

寺澤　捷年

和漢診療学の設置は平成17（2004）年である。医学研究院の中で最も新しい部門が「和漢診療学」ではなかろうか。

この部門の発足には３つの背景がある。

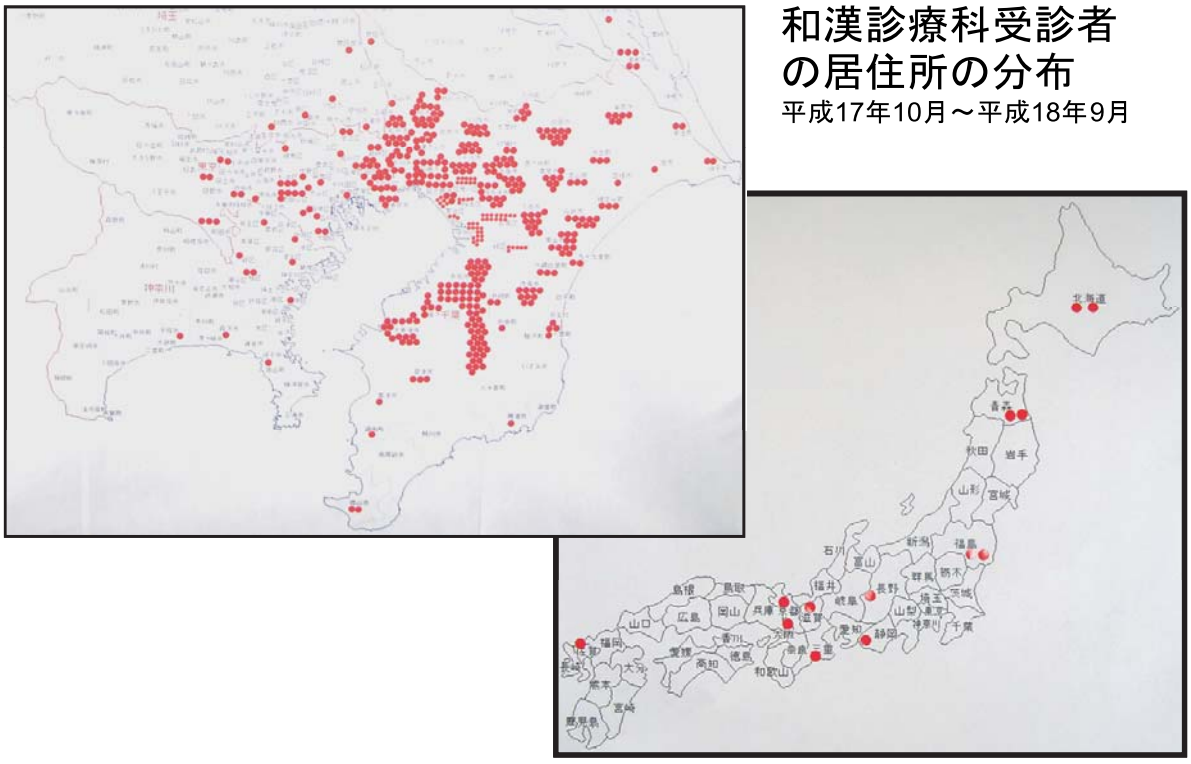
第一の背景は，磯野可一先生が学長であった平成16（2003）年に柏の葉キャンパスに「柏の葉診療所」が設置された。この診療所は自然との協調を図るという理念に基づき，「漢方診療」を主体とすることが目標として掲げられ，現在も活発に活動している。

第二の背景は，医学教育のコア・カリキュラムに「和漢薬を概説できる」という項目が明記され（平成13（2001）年），全国の医学部・医科大学で漢方の基本的な考え方が教育されるようになったが，千葉大学には適当な教育者が居なかったことである。

第三の背景は，本学には昭和14（1939）年に学生によって「千葉大学東洋医学研究会」が組織され，漢方の伝統が連綿と受け継がれてきたことである。筆者自身もこの研究会で育った者の一人である。

平成17（2004）年の年の瀬に筆者の前任地である富山医科薬科大学に磯野学長からお電話を頂き「寺澤君，是非，母校に戻ってくれないか」との突然の依頼があった。当時の医学研究院長は福田康一郎先生であったが，学長と医学研究院長の合意の下に為されたものである。さらに磯野学長は漢方製剤の最大のメーカーである（株式会社）ツムラに協力をお願い下さり，ツムラの寄附講座が実現した。そこで，筆者はこれを受諾し，平成17（2004）年４月から赴任することになった。また同年10月には，医学部附属病院に和漢診療科が設置された。当時の病院長は齊藤康先生であり，この診療科の立ち上げに全面的な協力を頂いた。現在，ツムラ寄附講座のスタッフと筆者とが一体となり，順調に診療活動を展開している。

受診される患者さんは関東一円はもとより，北海道から沖縄県まで全国からお出で下さる盛況振りである（図）。さらに喜ばしいことは，様々な領域の専門家に容易にコンサルト出来ることであり，また，様々な診療科からも「これは和漢診療科に適している」という患者さんが多数，紹介されて来ることである。千葉大学医学部の伝統とも言える「治せる大学病院」の一翼を担うことが出来たことに感謝



和漢診療科受診者の居住所の分布
平成17年10月～平成18年9月

している。また，磯野学長から「柏の葉診療所」との連携を指示されており，現在も共同研究，人材の派遣などをとおして支援しているところである。

それ以降の経過であるが，寺澤捷年教授は平成22（2010）年３月に定年退官なされた。医学部長中谷晴昭教授と附属病院長河野陽一教授のご高配により，和漢診療学は医学部で継続し附属病院の和漢診療科での診療も継続することとなった。同年６月並木隆雄が准教授となり現在に至る（写真は平成20年寺澤捷年教授在任中と平成22年のスタッフ）。

なお（株）ツムラ寄附講座の詳細は，本書の寄附講座の項に詳述した。

（てらさわ かつとし）

平成20年 春

平成22年 秋